

第一節 昭和十六年

① 職員動靜〔任免関係原議綴〕 〔その他による。〕

昭和十六年

一月二十八日 和田三造は中華民国へ出張を命ぜられる。

二月一日 竹内英雄は海洋画に関する資料調査を臨時囑託される
(三月二十五日まで)。

三月八日 和田三造は中華民国出張の序を以て泰国へ出張を命ぜられる。

四月八日 生徒修学旅行につき、岸熊吉、新納忠之助、富田一昭は奈良県下における臨時実地指導を、入江幾治郎、安間立雄は京都府下における臨時実地指導を囑託され、多賀谷健吉、西田正秋、白川一郎、山脇洋二(以上四月十三日より往復とも十六日間)、武田寿(四月十三日より往復とも十三日間)、北浦大介(四月十二日より往復とも十日間)、豊田朝一郎(四月十三日より往復とも八日間)、佐々木卓(四月十八日より往復とも十日間)、齋藤幸晴(四月十九日より往復とも十日間)は夫々出張を命ぜられる。

四月十日 学校長澤田源一は日本諸学振興委員会本年度芸術学部臨時委員に任命される。

五月一日 片岡照三郎は漆工部の彫鏤実習授業を一学期間臨時囑託される。

同月七日 生徒野営演習に関し、地形偵察のため三橋利三、豊田朝一郎、齋藤幸晴は五月十日より往復とも二日間、習志野へ出張を命ぜられる。

同月八日 講師新規矩男は文庫課兼勤(図書掛長)を免ぜられ、同石沢正男が図書掛長を命ぜられる。

同月十三日 生徒野営演習につき、三橋利三、豊田朝一郎、齋藤幸晴は五月十四日より往復とも四日間、佐々木卓、森田亀之助は五月十六日、習志野へ出張を命ぜられる。

同月二十三日 同様に地形偵察のため三橋利三、豊田朝一郎、齋藤幸晴は五月二十四日より往復とも二日間、千葉県一宮町へ出張を命ぜられる。

同日 学術実地指導のため丸山不忘は五月二十八日より往復とも四日間、宮城県、岩手県下へ出張を命ぜられる。

同月二十七日 生徒野営演習につき、三橋利三、豊田朝一郎、齋藤幸晴は五月二十八日より往復とも四日間、佐々木卓は五月三十日、下志津へ出張を命ぜられる。

同月三十日 筒崎謙齋は文部理事官に任命され、文部省社会教育局勤務を命ぜられる。

同月三十一日 筒崎謙齋は依願免官となり、引き続き事務を囑託される。

同日 講師菊地白は依願解嘱となり、中村伝治は講師を囑託され、建築材料および施工法授業担任を命ぜられる。

六月三日 助教八田辰之助は工芸技術講習所助教兼任を命ぜられる。

同月六日 生徒野宮演習に關し地形偵察のため三橋利三、豊田朝一郎、齋藤幸晴は六月七日より往復とも二日間、富士裾野へ出張を命ぜられる。

同月九日 生徒野宮演習につき三橋利三、豊田朝一郎、齋藤幸晴は六月十一日より往復とも四日間、習志野へ出張を命ぜられる。

同日 教授津田信夫は工芸技術講習所教授兼任を命ぜられ、助教授森田武は同所教授兼本校助教授に任命される。

同月二十三日 生徒野宮演習につき三橋利三は六月二十五日より往復とも三日間、豊田朝一郎、齋藤幸晴は六月二十四日より往復とも四日間、高橋吉雄は六月二十四日、一宮町へ出張を命ぜられる。

同月二十六日 同じく佐々木卓は六月二十四日、一宮町へ出張を命ぜられる。

同月三十日 書記北浦大介は本校事務官に任命される。

同日 助教授西田正秋は七月一日より往復とも三カ月間、満州国および中華民国へ出張を命ぜられる。

七月四日 教授津田信夫は経理課長を免ぜられ、事務官北浦大介がこれに任ぜられる。

同日 小林万吾、六角紫水は帝国芸術院会員に任命される。

同月八日 生徒野宮演習につき佐々木卓は七月九日富士裾野へ出張を命ぜられる。

同月十八日 高橋吉雄は興亜学生勤勞報国隊北支および蒙疆派遣隊準備訓練所視察のため茨城県東茨城郡鯉淵村へ七月十九日出

張を命ぜられる。

同月十八日 浦野双観は書記に任命される。

八月二十日 職員中より帝国芸術院会員の外に山崎寛太郎、内藤春治、沼田一雅、加藤顯清が第四回文部省美術展覽会審査員を依頼される。

同月二十九日 矢代幸雄は中華民國へ出張を命ぜられる（九月二十六日出発、十一月十一日帰京）。

同月三十日 北浦大介は庶務課長、会計課長に、森井健介は教務課長に、佐々木卓は生徒課長に、香取秀真は文庫課長に任命される。

九月八日 東京女子高等師範学校書記西堂信一は本校書記兼任を命ぜられる（翌九日依願免兼官）。

同月二十六日 関重広に建築科の照明に関する講義（毎週二時間、十回）を臨時囑託したため謝儀として本校より百円贈与。

同月三十日 講師正木篤三は国民精神文化研究所員に任命される。

十月八日 講師木村得三郎は依願解嘱となり、吉田五十八は講師を囑託され、建築製図実習担任を命ぜられる。

同月十四日 教授南薫造は油画科主任事務取扱を命ぜられる。

十一月一日 助教授山田廉は日本画科理事を、同岡四郎は油画科理事を、同金沢庸治は建築科理事を、講師入谷昇は彫刻科理事を命ぜられ、教授森井健介（建築科）、同北村西望（塑造部）、同南薫造（油画科）、同小泉勝爾（日本画科）、関野聖雲（木彫部）は各理事を免ぜられる。

同月六日 元京都帝国大学書記大友春松は本校書記に任命される。

同月八日より十二月六日まで東京高等工芸学校教授築島棟吉は図画師範科の機械に関する臨時講義を嘱託される。

十二月十八日 教授多賀谷健吉、同北村西望、同南薫造は生徒主事兼任を命ぜられる。

同月二十七日 講師羽野禎三は助教授に任命される(図案部勤務)。

② 卒業式

昭和十六年三月二十四日、第五十回卒業証書授与式が行われ、同日より三日間、校内で卒業制作品陳列会が開かれた。左記はその記録文書の抜粋である。

第五十回卒業証書授与式次第 (三月二十四日)

- 一、新卒業生入場著席 (午前 十時)
- 二、職員、参列舊卒業生著席 (第一號 講堂北ロヨリ出入 第二號 講堂東ロヨリ出入 第三號 講堂東ロヨリ出入)
- 三、來賓著席
- 四、宮城遙拜、靖國神社遙拜、出征將士ノ武運長久ヲ祈ル
- 五、君ケ代
- 六、卒業證書及賞品授與
- 七、學校長式辭 (卒業生前後敬禮)
- 八、文部大臣祝辭 (卒業生前後敬禮)
- 九、卒業生總代答辭

一〇、校歌

一一、式終了挨拶

一二、來賓、職員、舊卒業生、新卒業生順次退場

附

- 一、退場後、來賓、舊卒業生ハ休憩所ニテ休憩ノ事
- 二、退場後、職員、新卒業生ハ直ニ寫眞場へ集合ノ事
- 三、式ノ前後ニ於テ卒業生製作品隨意觀覽

卒業生科別人員

科名	本科	選科	特別學生	計
日本畫科	一六	〇	〇	一六
油畫科	三六	〇	〇	三六
彫刻科	一四	〇	〇	一四
木彫部	五	〇	〇	五
圖案部	一	〇	〇	一
彫金部	五	〇	〇	五
鍛金部	二	〇	〇	二
鑄金部	三	〇	〇	三
漆工部	五	〇	〇	五
建築科	七	〇	〇	七
圖畫師範科	一三	〇	〇	一三
合計	一一七	〇	〇	一一七

卒業生姓名卒業製作目録 (席次いろは順)